



2021年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社 イオレ  
 代表者名 代表取締役社長 小川 誠  
 (コード: 2334、東証マザーズ)  
 問合せ先 取締役 岩崎 啓昭  
 (TEL. 03-4455-7092)

2021年3月期通期業績予想と実績値の差異、特別損失の計上  
 及び繰延税金資産の取崩しに関するお知らせ

2020年8月14日に公表しました2021年3月期通期(2020年4月1日~2021年3月31日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。加えて、特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しについて、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期通期業績予想と実績値の差異(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2020年8月14日発表)	1,300 ~1,501	△327 ~△271	△307 ~△250	△309 ~△252	△132.76 ~△108.41
実績(B)	1,439	△295	△274	△630	△271.32
増減額(B-A)	138 ~△62	32 ~△24	32 ~△23	△321 ~△378	
増減率(%)	10.6 ~△4.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期通期)	1,844	26	26	0	0.41

2. 差異の理由

2021年3月期の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、現時点で入手可能な情報や市場動向の予測等に基づき、レンジ形式で通期の業績予想を公表いたしました。これらの業績予想は、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な状況であり、下期においても当該状況が一定程度継続するものの、今後は予防対策を伴いながら徐々に経済活動が再開され、企業の求人意欲の回復が緩やかに進むことを前提としておりました。第3四半期以降は事業環境も緩やかに改善されておりましたが、2021年1月の緊急事態宣言の再発出等による影響もあり、売上高はレンジの上限寄り、営業利益及び経常利益はレンジのほぼ中央値となりました。

当期純利益に関しては、当期に特別損失の計上及び繰延税金資産を取り崩した結果、当期純利益は前回予想を下回り、630百万円の当期純損失となりました。

3. 特別損失の計上について

2021年3月期第4四半期において、ソフトウェアを中心とした一部の無形固定資産等について、現在の事業環

境及び今後の業績見通し等を勘案し、将来の収益を保守的に見積もり慎重に検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、減損損失 297 百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、当減損損失額は上記業績予想の実績値に含んでおります。

#### 4. 繰延税金資産の取崩しについて

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、今後の事業環境を踏まえた現時点における将来の課税所得を保守的に検討した結果、繰延税金資産を取崩すこととし、これにより法人税等調整額が 57 百万円となりました。

より詳細な内容につきましては、本日発表の「決算補足説明資料」に記載しております。

以上